

令和 8 (2026) 年度 第 2 回 下都賀地区臨時採用教員研修会を開催しました

日 時：令和 8 (2026) 年 8 月 18 日（火）13：15～16：10

会 場：ホリ電コスモスホール(栃木市岩舟文化会館)・栃木市岩舟公民館

参加者：（１）栃木県教育委員会採用の臨時採用教員及び非常勤講師の希望者

（２）市町教育委員会採用の期限付き教員及び非常勤講師の希望者

1 研修内容について

- （１）目的 ①学習指導、児童・生徒指導及び学級経営等について基礎的な指導力の向上を図り
自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
②臨時採用教員の任用に関することや、服務規律の確保に努めることなど、教員としての使命を自覚し、自己啓発に努める姿勢を養う。
- （２）内容 ○講話・説明 ①「臨時採用教員の任用について」
②「本日の研修の進め方について」
○学習指導に関する講座、児童・生徒指導に関する講座（各 6 講座）

2 本研修で確認したこと

- （１）臨時採用教員の任用について
○令和 9 年度臨時的任用希望調査（今後の予定）等について
○教育公務員としての心構え・服務について
・体罰及び言葉による暴力の禁止 ・交通法規の遵守
・わいせつ行為、ハラスメントの禁止 ・個人情報漏洩・流出の防止
・教育公務員としての身だしなみ（服装、髪型、アクセサリー等）
・SNS 等による職務上知り得た情報の拡散、SNS 等を利用した出会いの禁止
- （２）本日の研修の進め方について
○本研修の目的の確認
○主体的に研修に参加するための心構え

3 本研修で学んだこと（参加者が記入した〈研修の振り返り〉から）

【第一部 学習指導に関する講座】

- 日々の授業において、子どもたちが主体性を持って学ぶことができるように、学習方法を選択できるような環境づくりをしていきたいと思いました。また、楽しくそして学びの多い授業づくりを私自身も楽しんで行うことを心がけたいと思いました。
- 「国語」に関する講義を受け、言語活動を設定するときには、目指す資質・能力の育成に必要な活動であるか、誰に向けて、何のために、その活動をするのかということを明確にしなければならないということを学びました。目標の設定、ゴールの明確化が、生徒にとっても大事なことであり、授業を作る教員にとっても大事なことであったと感じました。
- 「体育・保健体育」の講座では、子どもたちのつまずきには心理的、社会的、技術的の 3 つの種類があることを学びました。つまずきの原因が何かを把握し、運動遊びなどで自信をつけさせてから再度挑戦させたり、環境を変えたりすることを今後の授業で取り入れて、子どもたちの「やってみたい」「できた」を増やしていきたいと思いました。

- 授業では教師が知識を教えるだけでなく、子どもたちが隣の人に問いたくなる「問い」をつくらることが大切だと学びました。特に、子どもたちが当たり前だと思っていることを揺さぶったり、見逃していたことに気付かせたりする「問い」によって、確かめてみたいという気持ちが生まれ、理科的な見方・考え方で物事をとらえることができることを学びました。
- グループで「導入・展開・まとめ」の具体的な授業イメージについて意見を出し合いました。話合いの過程で、授業の活動内容についてのアイデアは多く出たものの、「学習課題」をどのように設定すべきかで行き詰まる場面がありました。この経験を通して、単に活動の形を考えるのではなく、「ねらい」を明確に見据えた上で、子どもたちが主体的に追究したくなる学習課題の設定を意識することが大切であることに気付きました。
- 道徳の授業では、子どもたちが多面的・多角的な視点から物事を考えられるよう、発問が重要であると学びました。そして、子どもたちに多面的・多角的な視点から物事を捉えさせ、様々な考えを引き出せる発問をするためには、教員の教材研究が非常に重要であることを改めて確認できました。

【第二部 児童・生徒指導に関する講座】

- 自立活動では、子どもたちが何につまづいているのか、何を困難に感じているのか、日々の行動から推測し、上手くいっている所を中心に指導に当たっていくことが重要であることを講座を通して感じました。
- 今回の研修を通して、生成 AI は使い方次第で教育の可能性を広げる一方で、情報モラルや著作権、個人情報保護などの課題もあることが分かりました。AI を活用するには、その利便性だけでなくリスクについても十分に理解し、子どもたちが安全に活用できるよう指導していく必要があると感じました。
- トラブルが目の前で起きた場合には、子どもたちの話に傾聴したうえでその場ですぐに判断するのではなく、聞いた話を基に組織として迅速に対応していくことや、普段から子どもたちの学習面、生活面の行動をよく見ておくことが大切だと感じました。
- 教員自身や子どもたちが「人権的に問題がないか」を自問自答して自ら気づく習慣をつけること、そしてお互いにアドバイスし合える学校風土を築く大切さを学びました。また、物事を二項対立や「全か無か」で捉えるのではなく、その背景にある感情や事情にも目を向ける柔軟な姿勢が、人権を尊重した学級経営の土台になると学びました。
- 生徒指導というと、校則やルールを守らないときに教員が注意するイメージでしたが、あくまでも子どもたちが主体となって学校生活を送ることができるよう教員は支える立場にいることが大切なのだと学びました。
- 今回、児童・生徒指導の話を聞き、知識がなければ、未然防止、早期発見もできないし、問題が起こった際に、保護者に対して具体的な説明をすることができないということを聞き、知識の重要性がよく分かりました。今後は、今日の講義を基にして勉強をして、知識をためていこうと思います。

